(長岡京市) 自分ごと化会議 in 長岡京 第2回議事メモ

分科会	第1分科会（環境保全）
コーディネーター	伊藤 伸 永由 裕大
ナビゲーター	なし
説明担当者（自治体）	自治振興室：今北 堀江 環境業務課：入江
日時	2021年4月10日（土） 13時30分から 16時00分
場所	産業文化会館 1階 大会議室
その他	参加者数 <u>15名</u> 欠席者数 <u>12名</u>

趣旨・概要

- 前回の振り返り
- 初参加の人の自己紹介
- 自治会・協働について
- ごみステーションの管理について

総括

コーディネーター総括

- 自治振興室から自治会の状況や指針について説明がなされた。
- 自治会の加入率53.3%で年々減少。抑制の方法について議論。加入率80%を超える自治会の手法として、高齢者が楽しめるイベントの実施、子どもの参加の2点に力を入れている。一方で、自治会未加入者は地域で特に困っていない。そのうえで自治会の意義について議論した。
- また、環境業務課からごみステーションの管理方法について説明がなされた。
- 地域により管理方法は様々。いかにしてマナーを守っていくかを議論した。

主な論点

論点① 自治会・協働について

- ・自治会加入のメリット
- ・脱会者を減らし、入会者を増やすには
- ・自治会に入っていない人の意識

論点② ごみステーションの管理について

- ・ごみステーションの現状
- ・地域毎の管理方法

委)：委員、コ)：コーディネーター、ナ)：ナビゲーター、市)：説明担当者

・ごみステーションのトラブル

自治会加入率 53.3%

毎年1%ずつ減少 ← 市では加入してはいるが、
 マリトは? ← 入っていても困る
 災害時の助け合い ← 平時は感じにくい

自治会区会抑制策 一度自治会に入れば復帰するには? ↓
 地域活動の活性化 ← 自治会には入らぬ
 公園管理 ← 自治会活動の一環で行う会もある
 防災の視点が重要 ← 自治会費補助

自治会加入率 80%の加入率
 市町村別加入率
 市町村別加入率
 市町村別加入率
 市町村別加入率

子会館の後、どう続けた?
 見直し

「協働」って?

- 多様な主体が対等な立場で連携しあう取り組み
- 強みや得意なことで出合えて課題解決を目指す

↓
 自治会活動の一環で行う会もある

ゴミステーション管理 下見 / 人1回分の家庭ゴミの量

今年2月から指定袋制度 220g/所

長岡京市 5358
 全国 6388
 京都府 4628

当初は混乱したが、現在は指定袋の量は減少傾向

また、ゴミステーションの管理

分別収集整理指導委託
 毎日ゴミステーション監視
 分別間取り任付トラブル対応
 前日夜に出取がわり
 利便性とメンテナンス

足らない人への福祉収集サービス
 各戸収集の可能性
 税投入のバランス
 自治会長の負担
 負担が下りて来ている

協議の流れ

コ) 前回の開催が12月だったので、4カ月経ってしまった。できるタイミングで、できる範囲でこういった話し合いをすることは大切だと思う。この班は環境保全がテーマで、今日は大きく二つのことについて話し合う。一つ目は長岡京市の自治会の状況と協働の考え方について。二つ目は地域のごみステーションの管理などについて。最後に改善提案シートに記入いただき提出していただく。コーディネーターは伊藤と永由二人で担当する。それではまず自治会の全体像について説明をしていただく。

① 自治会・協働について

市) 自治会とは住民が自分たちの住む地域をよりよくするために自主的に地域住民によって結成された組織。市の組織ではなく、あくまで地域の人で自主的に組織。現在長岡京市には57の自治会がある。令和2年4月1日時点で加入率は53.3%。10年前は63.6%で、毎年1%程度減少している。加入率が減少している主な原因は、高齢化や役員の担い手不足などが考えられる。また市内には自治会のない未組織地域が17地域ある。自治会活動について、地域によって活動内容に違いはあるが、自分たちの地域をより住みやすい地域にという思いで活動されている。例えば、自治会で年に数回公園の清掃をされている。こういった活動のおかげで公園環境が維持されて誰もが安心安全に使用できることに繋がっている。また行政からの依頼でポスター掲示や回覧、防犯委員や少年補導委員などを担っている。地域課題に対するご意見をとりまとめて市へ要望されることも。市では自治会が行う様々な活動に対して補助制度がある。

コ) 加入率53.3%と紹介があったが、これについてどう感じるか。

委) 低い。毎年減っており、存続するかどうかの瀬戸際。

委) うぐいす台は加入率が80%ほど。担い手が高齢化で少なくなっている。うぐいす台は新興住宅地で、開発と同時に自治会を組織した。地域意識があるため、加入率が高いのでは。2年間自治会長をさせてもらったが、その次の役員をつくっていくことを大事にしていこうと思い、関わりをもって次の人が出てこられるような環境づくりをした。比較的次の自治会長が出やすかったのだと思う。

コ) 若い方のご意見も伺いたい。

委) 自治会には入っているが、入っているメリットを感じられない。小さいときは地藏盆でお菓子もらえたりしたが、大人になると何のために入っているのだろうという気持ち。

コ) 市としては自治会に入ってもらいたい？

市) 行政側でもできれば入っていただきたいと考えている。例えば災害が発生したとき、自治会活動のなかで人との交流が生まれていけば、お互いの情報が共有でき、いざというときに助け合うことができる。

コ) 日常的にはメリットを感じられにくいですが、何かあったときに自治会の存在は大きいかもしれない。続いて、協働という考え方について説明をお願いします。

委)：委員、コ)：コーディネーター、ナ)：ナビゲーター、市)：説明担当者

市)「協働」とは、異なる多様な主体が、対等な立場で、公共的な分野での共通の目的・課題に対し、責任と役割を明確にし、連携しながら取り組むこと。異なる多様な主体は、行政、市民(個人)、市民活動団体、住民自治組織、企業、大学などがある。市民のニーズが多様化しており、行政だけで課題を解決するのが難しい課題もあり、多様な主体が持つそれぞれの強みを生かして協働を推進することで、きめこまやかな対応が可能となり、課題解決に繋がる。市では「長岡京市まちづくり指針」を策定している。行政と市民(行政以外の多様な主体)との間の協働を進めていくための方向性を示したものの。この指針の内容を具体的にすすめるための実行計画である「長岡京市市民協働のまちづくり推進プラン」もつくっている。長岡京市では、協働に政策立案、事業委託、事業協力、実行委員会・協議会、共催、補助・助成、後援の7つの形態があると考えている。協議会の事例としては、「西山森林整備推進協議会」がある。市役所、企業、土地所有者、市民活動団体が協働して森林整備を継続して行っている。事業委託では、「みどりのサポーター制度」がある。登録団体に市が管理する公園等の緑化活動をしていただき、行政側では保険の加入や器具の貸し出しなどを行うという役割分担で協働している。補助・助成では、市民活動応援補助金という制度がある。市民活動団体から事業の提案を受け、地域課題の解決に寄与すると認められた場合に事業に対して補助金を交付するもの。採択事業には子育て支援、高齢者の交通安全事業、災害啓発イベント等がある。

コ) 協働は説明があったとおり、異なる主体がある目的や問題に対して、お互いが強みを生かし弱みを補完しながら、対等に活動すること。ちなみに具体事例として紹介があった活動にかかわった方はおられるか？

委) 自治会長をしていたときに、自治会のお手伝いをしていただいた方が、サポーターとなり、もともと行政が管理していた地域の公園整備や地域活動のお手伝いをしていただいている。

コ) 何人くらいの方が活動されている？

委) サポーターは20~30人程度。つながりを求めて入る方もいる。

コ) 公園整備だけでなく、そこで出会った人同士でネットワークをつくっていきける。

委) 緑の協会がじゃぶじゃぶ池、西代里山公園の整備や、市内への植樹を行っている。その組織に関わっていた。緑を保全することは大事。環境保全＝緑の保全という意識を持っている。長法寺は農業中心。おくどさんの着火のため松の葉や薪とかを拾っていたがLPガスが60年近く前に導入され、エネルギー変換が起きると山が荒れていった。松林が竹林になってしまった。環境の変化を目の当たりにしている。みどりのカーテンで温暖化を防ぐ取り組みや、子どもたちにみどりの大切さを学ぶ機会となっている。

委) 消防署の前のプランターはみどりのサポーターの活動。緑の協会は保険加入や宣伝・イメージづくりをする。市民に喜んでもらっている。

市) 市内にある公園の約半分のみどりのサポーターがついて、花壇の整備などを行っている。サポーターがついてないところは市が整備するが、最低限のものになってしまっている。サポーターがついているほうがきれいな印象。

委)：委員、コ)：コーディネーター、ナ)：ナビゲーター、市)：説明担当者

コ) サポーターの担い手についてはどうか？新しい人は入ってきているのか？

委) 若い方はお勤めになっているので、元気な高齢者が担い手になる。自治会は世代を超えていざというときに入るもの。そのためにもちつきなどの交流で繋がりを作っている。

コ) 資料を見ると自治会で取り組まれている活動がすごく多い印象。高齢化で担い手が減っているという話があったが、困っていることなどはあるか？

委) 自治会加入率がどんどん減ってきている。脱会者を減らし、新規入会を増やすことに力を入れなければいけない。歯止めをかけるためにどうしたらよいか。何かいい策があれば。

コ) いいアイデアやご意見があれば。自治会に入っている人に自治会の状況を伺いたい。

委) 久貝は住民の方が自治会活動に関して協力的で活発な地域。ただ担い手に関しては、役を頼むとしり込みされるという状況。次期役員が集まらない。活動には協力的で、行事の参加率や加入率も高いが、脱会される高齢の方が増えているのも事実。加入は任意なので引き留めるのが難しい。自治会活動を活発化させて、魅力のある自治会にするしかないのかと思う。

委) これだけ高齢化しているので、老人クラブの活動を活発にしないといけない。長法寺校区の市民運動会では、ここ 6~7 年うぐいす台が優勝している。住宅の新陳代謝があり、若い人が結構入ってきているからなのかもしれない。住みやすいところだから、若い人が入ってきているのかも。高齢者が抜けないようにすることと、新陳代謝が行われていると、地域は若返っていくのではないか。こども会に自治会から援助を行っている関係で、若い世代は自治会に入ろうかなと思っていたらいいのかもしれない。

委) 若い方はメリットデメリットの話がよく出る。私が入った 26 年前には明星水自治会は加入率が 9 割を超え、運動会でも優勝するような地域だったが、高齢化によりだんだん衰退した。一方で自治会は脱会したが、災害が心配でもう一回加入したいけど長い間抜けていたので戻りにくい、肩身が狭いという人がいる。どうしたらよいか案があれば。

コ) 脱会される理由は？

委) 高齢で役がこなせないというのが圧倒的。会長に手を挙げる人がいない。副会長までは輪番でできるが、会長は難しい。

コ) 特に大変なことは？

委) 自主防災会を全面に出したい。高齢になるほどお世話になる。自治会に入っていることによって互助関係になれば地域活性化に繋がるが、具体的なアイデアは出ていない。

コ) 広島県三原市では自主防災会に力を入れている。広島県はもともと災害が少なかったが、ここ数年で災害が頻発している。もともと自主防災活動を継続してやっていた三原市のある地域では、西日本豪雨の際に、市よりも先に対策本部を設置して動いた。結果、新しい住民も地域組織に加入する必要性を感じ、加入者が増えている。

コ) 若い世代の方で、自治会に入っこれが楽しかったということがあれば。

委) こども会の時の記憶しかない。今は自治会に入っているものの、祖父が会に出ていて、自治会でどういったことが行われていて、どういったことが課題なのかをあまり知らない。

それが個人的な課題だと思う。楽しかったことは地藏盆や子どものコミュニティができること。こども会に入っていることで、地域の友達ができただけがメリット。

コ) 市外に仕事に行っているとなかなか自治会の会議に参加しにくいという現状があるのかと思う。

委) 小学生のときは地区の運動会でお菓子もらえたり、学校でゴミ0運動をしていたときに、学校の近くの大人と仲良くなれた。

コ) こども会の活動は小学校くらいまでだと思う。中学に入って活動からだんだん離れていって、自治会には入っているけど参加していないという現状がある。どうやったら継続して繋がりを持てるのか？

委) 思い出づくりだと思う。地域に対する思い。地域の運動会は中学生高校生、大学生も参加している。広島からわざわざ帰ってくる大学生もいる。小学校卒業の際に、自治会から贈り物をすると、運動会などの際に帰ってきてくれる。

委) 私が住んでいる地域は自治会未組織地域。自治会のない地域に住むと、そもそも自治会って何をしているのか、ということが分からない。子どものころの良かった思い出はあるが、実際自分が世帯を持つと、自治会がどういうことをしていて自分は何をしたらいいのかについて、知らないまままきまきしている。長岡京市の住民になったときに「自治会とは」「自治会の役割は」という説明があってもいいのでは。市としてしくみをつくって未組織地域をなくしていければと思う。

コ) 自治会がなくて困っていることは？

委) 今のところない。気づいていないだけなのかも。困っていることが分からない。

委) 入らなくても困らないというのは説得力が大きい。辞めてしまう人が多い。

コ) 福岡県大刀洗町は加入率 99.5%。転入時に自分の自治会を紹介され自動入会になり、入りたくなければ連絡が必要となる。活動も活発で、入ったらいろんな人が紹介してくれるので、結果として定着していく。もうひとつライト自治会という仕組みを作っている。あんまり役や活動をしたくないが、何かあったときに入るときたいという人はお金で協力するというので、会費を上げたら、加入率が上がった。

コ) 自治会に加入していない人の視点の話もお聞きしたい。

委) こども会は加入していたが、いまは加入しているかどうか分からない。今のところ活動に関わっていないことによる問題や不便を感じていない。

コ) 選挙ポスター貼りをサッカー少年団がやっているところがある。遠征費を稼ぐため。ポスター貼りは自治会がしているところが多いと思うが、それ以外の団体が担っていることもある。自治会のいろいろな仕事を誰が担っていくかということも、柔軟に考えられればと思う。

—休憩—

コ) 環境保全がテーマなので、前回話題になったごみステーションの管理についての話を市の担当課に説明してもらおう。

委)：委員、コ)：コーディネーター、ナ)：ナビゲーター、市)：説明担当者

市) ごみステーションの管理について前回話題になったということをお聞きしたので、説明をさせていただく。その前に、指定ごみ袋制度を2月から導入した。1月までは袋の色は黒が多数で切り替わるか不安なまま2月を迎えたが、9割ほどが指定袋で出させていただいている。日を迫うごとに指定袋以外の袋は少なくなっていった。みなさんの意識の高さや、自治会長をはじめ、町内会や青年団など地域の方の協力で指定ごみ袋制度をスタートできた。この場をお借りしてお礼を申し上げる。

ごみは自治会に入っているかどうかに関わらず、赤ちゃんからお年寄りまで全員が出すものであり、ごみのしおりを全戸配布している。ごみステーションには2種類ある。燃えるごみと資源ごみ。燃えるごみは2200箇所、資源は220箇所。どちらのステーションも使われている地域のみなさんに管理をお願いしている。自治会の中で当番制にしたり、役をされている方がしたり、自治会のないところは町内会や隣組などで当番を決めて管理しているところもある。そういったご協力のおかげで、収集日の午前中のうちに収集ができています。資源ごみについては、分別が難しいのかできていないところもあり、適正排出を促すためHPや冊子の配布などを通じてお願いをしている。管理はステーションを使う地域の方での管理が原則だが、地域によっては管理が行き届いていないところもあり、地域の人からの相談があったときはシルバー人材センターの方に立っていただく場合がある。地域で自主的に当番に立っていただき分別指導をしているところもある。自治会等、分別収集指導をお願いしている団体が19団体ある。シルバーさんに立ってもらうところは約30箇所程度で、改善されれば別の地域に行ってもらっているので、年によって若干配置は異なる。ごみステーションは地域の皆さんの共有物なので、住んでいる方を中心に管理していただくことで、環境の美化につながっていくと考えている。

委) 指定ごみ制度がはじまり、自宅がステーションに接しているので心配だった。最初の1~2週目は黒いごみ袋があった。ステーションが散らかっていれば自分で自主的に片づける場合があるが、指定袋以外の袋で捨てられているなど、あまりにひどい場合は市にお願いしてもよいのか？

市) 指定袋以外の袋で捨てられていた場合は、できればそのまま残しておいていただきたい。間違ってお出した方に気付いてもらう期間。可燃ごみは週に2回収集があるので、次の収集日まで放置されていれば回収している。その間にカラスがつつくなどでごみが散乱したときは市で対応している。最近では減っているが、悪質なものの対処に苦慮している。情報をいただけるのはありがたいので、市に連絡いただければ。

コ) ごみステーションを使っていて思うことは？

委) 賃貸マンションのため、マンションのステーションに決まった時間までに捨てている。資源ごみは少し離れたところにステーションがある。直接使っているところでトラブルはないが、別のステーションでカラスがつついてゴミが散乱しているところをよく見かけた。収集日の前夜とかに出しているのではないか？地域ごとの管理の違いはあるが、苦勞をされているのではないかと感じていた。

コ) 管理や掃除をしている人のお話をききたい。

委)：委員、コ)：コーディネーター、ナ)：ナビゲーター、市)：説明担当者

委) 指定ごみ袋に切り替わる直前の1月28日の朝に見回ると、黒のごみ袋が8~9割だった。環境業務課から指定ごみ袋を無料配布していただいております、加入者に配布していたこともあり切り替わることが不安だったが、2月1日になったら、黒の袋が4~5箇所10袋くらいになり安心した。そのあともどんどん減ってきた。それでもずっと黒い袋を捨て続ける場所があったので近隣の方に聞いてみると、証拠もないのに「その方は障害を持っているのでは?」と言われた。これは人権問題。別の場所では、高齢者で、本人は悪気もないけれど収集日以外の日に捨てたり、生ごみに瓶を入れたりする方も。また、車で来てぼんと捨てる悪質な方もいる。掘り下げると色々な課題がある。高齢者の認知症の人とかはどうするのか? 誰が手助けするのが課題。

コ) 認知症もだが、足の不自由な人など、ごみ出しが困難な人へのサポートはどうなっているのか?

市) 導入開始前から、福祉と連携し周知した。周知不足もあると思うので、引き続き周知に努めていく。足の不自由な方など、福祉サービスを受けている方については、一昨年の10月から申し込み制で福祉収集サービスも行っている。想定している数にははたっていないが、少しずつ増えてきている。

コ) 参考までに、長岡京市の家庭ごみ排出量は一人一日当たり令和元年度で535g。全国平均は638g。京都府は462g。

市) 京都市を除いた京都府平均は長岡京市を少し上回る。京都市が平均値を下げている。京都市は指定袋を導入し、スケールメリットを生かして環境政策をすすめており、成果が表れているのではないかと。本市も手本にしつつ進めていきたい。

コ) 指定袋の目的はゴミの減量。地球環境にもいいし、ごみ処理のための税金も減る。

委) 資源ごみの収集指導をしている。月2回朝に収集かごを整理し、地域の方が捨てる際に分別指導をする。自治会関係なく住んでいる人が1年に1回必ず指導担当になる。先ほど黒いごみ袋を車で運んでくる人がいるという話があったが、私の地域では当日の朝に収集かごをセットしている。収集場所がない人が持ってくるのではないかと思ひ、収集場所の新設を業務課に相談すると、地域の人で決めたところに収集に行くと言われたが、ゴミが風で飛んでいくという問題があり、設置には至らなかった。どう解決したらよいか?

資源ごみの収集箇所を増やせないか? 高齢化が進み、すぐそこだが持っていきのが大変な人も。うぐいす台ではそういう人は自宅玄関に出してもらって、元気な人が回収してステーションへ持っていく。市も限界があると思うが、何か策はないか。

認知症のひとが分別できず、近くに住む娘さんに相談すると、ごみを一切出さなくなった。実は娘さんがごみを持ち帰っていた。根本的な解決になっていない。

コ) 北海道恵庭市では、全世帯が家の前にごみ袋を置いて、収集車がすべて回収する。しかし収集にかかるコストは他自治体より2.5倍高い。恵庭市はごみが少ない。40ℓの袋が160円と高いので少ないのかもしれない。

コ) ごみを出す中で感じていることはあるか。

委) 自分の地域ではごみステーションに出す人全員で当番制の清掃やネットかけをしてい

る。道路の反対にマンションがあり、引っ越しの時に全く関係ないごみを夜中に捨てていってしまう。マンションの管理人に話しをする場合もあるが、管理人やトップの人が見つからない場合は市が仲裁してくれるのか。

市) ご相談いただければ、自治会長さんや管理人さんにお話しさせてもらう。粗大ごみをステーションに捨てるという相談は多い。相談やビラ配りなどもしている。何かあれば相談してもらえれば。

コ) 地域同士や住民同士のトラブルはある？

市) 地域同士というより、ごみステーションの近くに住んでいる方からの相談が多い。夜中に業者がトラックで不法投棄をすることも。夜間パトロールもしているが、なかなか減らない。貼り紙などで良心に訴えるかたちで対処しているのが実情。

委) 市によく相談し、対応してもらっている。木津川では指定袋への切り替わりに半年くらいかかったと聞いたが、それに比べると長岡京市はマナーがよい。自治会長に相談や苦情が寄せられるが、ごみ管理について自治会長にどこまで権限があるか分からない。ごみの問題は自治会長の仕事なのか？苦情処理係になってしまい、いやになると思う。腕章をつけるなど権限をいただければ、もう少し積極的に関わられるのだが。

コ) ごみステーションで監視をする人たちは自治会長や役員に限らず普通の人も立っているのか？

委) どこまで積極的に関わってくれているかは分からない。

委) 自分は自治会長だったので監視の担当になったが、230世帯を1年間かけて指導。そのボランティア料はすべて自治会へ入れている。自治会にとっては大きな財源。

コ) ごみステーションの監視がされているということは皆さん知っていたか？

委) シルバーの人が監視されているのは知っているが、実際は監視のない夜中に捨てている人が多いと思う。

コ) ごみステーションは固定で設置されている？

市) 収集日の前日午後にかごを並べる。かごを並べるのを地域の人をお願いしているところも。収集日当日に捨てるのが原則だが、ライフスタイルの変化もあるので、マナーを守って捨てていただければ、前日に捨てていただくことは一定仕方がないことだと考えている。

市) 本当は当日の朝にセットしたいが、以前からの慣例などもあり難しい。変えたいという地域があれば相談してほしい。

コ) 京都市内では？

P T) マンションのゴミステーションに入れている。民間が回収。分別も不要。自分自身は出勤時に捨てているので、朝にしか捨てられなくても問題はないと思う。

コ) 自治会未組織地域はどうか？

委) だれかが立っているわけではないが、掃除当番が隣から回ってくる。収集が終わった後に片づける仕事。乱雑になっているようなことはほとんどない。ごみは前の日の午後から捨てられているが、基本的にマナーは守られていると思う。

コ) ゴミ当番の形態について、ほかの地域ではどうか？

委) ごみステーションを越えたコミュニティがある。ルールをみんなで話し合っただけで決めた。当番が難しいからこの人は飛ばすといったこともそのコミュニティで決める。そのコミュニティは自治会加入しているとかは関係ないと思う。

コ) あと 10 分なので、改善提案シートの記入をお願いします。

環境保全についての課題に対して、市民や地域は何ができるか、できないことは行政や団体にどう依頼するか。課題をいろいろ出してほしい。それをもとに次回以降進めていく。

委) 自治会への参加やマナーの問題は、教育の問題ではないか。地域の課題でもあるし、行政の課題でもあると思う。これがないと将来の環境保全は難しいのではないか。

コ) 次回、環境政策室から説明をお願いします予定。

コ) 長岡京市の自治会長は特別職職員として権限を付与しているわけではない？

市) そういったことはしていない。自治会ではないが小学校区の地域コミュニティ協議会立ち上げの際に自主運営が軌道に乗るまで市の嘱託職員を任命している。

委) 単身者用マンションに住んでおり、マンション前にごみステーションがある。1月下旬はごみステーションに入りきれないくらいごみが多かったが、2月に入ってほとんどが指定ごみ袋に。管理会社から違法なものがあれば調べて本人に返すと各戸に通知があり、ごみが激減した。出す人の意識が変わったと感じる。近隣の方がそこに捨ててしまうという問題もあるが、指定袋で捨てられているので誰も文句を言わない。テレビなどの粗大ごみを入れる人もいるが、管理会社で処理されている。

市) みなさんの意識が変わったと実感している。市民全体の底上げにもつながっている。

委) 高齢者夫婦 2 人で住んでいるが、ゴミの量が多い。ゴミの減量を考えないと。過剰包装の問題もある。エコバッグでゴミを減らすなども考えないといけない。

コ) そういったことを考えてられている時点で、この施策の効果があるのだと思う。

次回の分科会に向けた準備

次回の分科会の進め方

- 環境政策室から基本計画の説明を聞き、環境課題に対する周知、美化の推進、環境教育に関する議論を行う。
- また、緑のサポーター、子ども会、運動会などのアクセスポイントについても議論したい。

委)：委員、コ)：コーディネーター、ナ)：ナビゲーター、市)：説明担当者